

徳山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	住宅計画学
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「建築計画教科書」(彰国社), 教員作成の学習シート, 【参考資料】住環境の計画 1~5巻(彰国社)				
担当教員	目山 直樹				
到達目標					
すまいとまちの構成原理, 住宅計画の方法論, 計画と生産・維持管理に関する知識を修得すること, 建築家の作品にみる構成原理を知り, 解説できることを到達目標とする。 1.住宅と生活, 住宅と生産から住まいとまちの構成原理を理解できる。 2.寸法, 規模, かたち, 集合, 地域の計画など住宅計画の各論を理解できる。 3.ヴァナキュラーな住宅と構成原理をテーマに, 自然環境, 生業形態, 社会形態, 文化形態, 建築技術の視点から解説できる。 4.工業化された住宅を例に, 自然環境, 生業形態, 社会形態, 文化形態, 建築技術の視点から解説できる。 5.巨匠の住宅建築を例に, 自然環境, 生業形態, 社会形態, 文化形態, 建築技術の視点から解説できる。 到達目標C1					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1.	住まいとまちの構成原理を専門知識をふまえて理解できる。	住まいとまちの構成原理を理解できる。	住まいとまちの構成原理を理解していない。		
到達目標2.	住宅計画の各論を専門知識をふまえて理解できる。	住宅計画各論を理解できる。	住宅計画各論を理解していない。		
到達目標3.	ヴァナキュラーな住宅について, 具体的事例をもとに専門知識をふまえて解説できる。	ヴァナキュラーな住宅について, 具体的事例をもとに解説できる。	ヴァナキュラーな住宅について理解していない。		
到達目標4.	工業化された住宅について事例をもとに専門的に開設できる。	工業化された住宅について事例をもとに解説できる。	工業化された住宅について理解していない。		
到達目標5.	巨匠の住宅作品を, 住宅計画の知識をふまえて解説できる。	巨匠の住宅作品について事例をもとに解説できる。	巨匠の住宅作品を解説できない。		
学科の到達目標項目との関係					
到達目標 C 1 JABEE d-1					
教育方法等					
概要	毎回, 教科書や参考資料を提示し, 学習シートによる演習と解説を行い, 住宅計画学に関するレポートを提出する。本科で履修した「建築計画」の知識をもとに, 計画各論的な位置づけの住宅ではなく, 住まいを中心とするまちづくりを意図した住宅計画について学ぶ。具体的には, 住宅と生活, 住宅と生産から住まいとまちの構成原理を学習する。寸法, 規模, かたちの計画や, 室内環境の計画, 住宅の品質確保, 集合の計画, 地域の計画, 住み手参加の集合住宅デザイン, 長期優良住宅について, 単元として学習する。住宅計画分野の知識を習得しながら, それらに応用した具体的な建築作品について考察する。				
授業の進め方・方法	毎回, 講義形式で授業を行う。毎回の授業に学習シートを提示し, 毎回の授業を理解するために活用する。ただし, 工業化された住宅の現場見学については, 近隣の住宅展示場の見学等, その都度, 柔軟に対応する。また, プレゼンテーションを伴う演習を3課題ほど課す。なお, 課題設定は, 受講人数の多寡により, 増減する可能性がある。その場合でも試験と演習等の評価割合は変えない。				
注意点	【関連科目】建築計画(土木建築工学科3年), 都市計画(土木建築工学科4年), 建築設計計画学(専攻科2年), 都市環境計画学(専攻科2年) 成績評価 試験(50%) + レポート(10%) + 演習1(10%) + 演習2(10%) + 演習3(20%) = 100% 演習1および演習3の評価 事前提出(40%) + プレゼン(20%) + 事後修正(40%)とする。事後修正についてはその内容に応じて評価点を与える。 レポートは, 各回の学習シートを綴じたものを期末に提出するものとする。学習シートは10回程度を予定。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	住宅と生活, 住宅と生産	建築の中でも, とくに住宅を取り上げて, 半年間15回の授業の中で, 住宅計画学として学ぶ全体像を示す。演習1の課題設定を行う。	
		2週	演習1 ヴァナキュラーな住宅と構成原理	世界各地の土着の住宅様式を取材し, 自然環境, 生業形態, 社会形態, 文化形態と建築技術の視点からレポートし, 考察できる。	
		3週	演習2 工業化された住宅の現場見学と考察	近隣の住宅展示場を見学し, 木質系と軽量鉄骨系のプレハブ住宅について, 設備や生産システムの違いをレポートし, 考察できる。	
		4週	寸法の計画	人間の寸法と設計の方法, 知覚による空間, 人間集合の空間の寸法計画を理解できる。	
		5週	規模の計画	利用の規模, 利用変動, 規模計画の方法を把握できる。	
		6週	形の計画	巨匠と呼ばれる建築家の住宅空間のデザインについて学び, 建築家の作品にみる形の計画を理解する。演習3のテーマを設定する。	
		7週	室内環境の計画	建築計画原論に基づく住宅の室内環境について理解し, 解説できる。	
		8週	住宅の品質の確保	住宅の性能表示制度について理解し, 解説できる。	
	4thQ	9週	集合の計画	住居を集合させる手法について理解し, 解説できる。	
		10週	地域の計画	地域計画における住宅計画と景観づくりなどについて理解し, 解説できる。	

	11週	計画と管理	公共住宅の計画と管理について理解し、解説できる。
	12週	住み手参加による集合住宅デザイン	コーポラティブ住宅の実例を学習し、事例から考察できる。
	13週	長期優良住宅の計画	長期優良住宅の考え方とその促進について学習し、解説できる。
	14週	演習3 巨匠の住宅建築について プレゼンテーション	建築家が設計した20世紀の住宅作品の中から一つを選び、時代背景をふまえて、自然環境、生業形態、社会形態、文化携帯と建築技術の視点からレポートし、考察する。また、そのプレゼンを行う。
	15週	期末試験	14回の授業の全項目から出題し、住宅計画に関する知識とその理解を確認する。学習シートを綴じたものの提出でレポート点とする
	16週	まとめ	試験の解答と解説。重要点を確認する。プレゼン課題について講評する。

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

### 評価割合

	試験	レポート	演習1	演習2	演習3	合計
総合評価割合	50	10	10	10	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	40	10	5	5	10	70
分野横断的能力	10	0	5	5	10	30